



# かほく防災記者リポート



宮城県大河原町大河原中1年 鈴木 想世さん

## 誰かの役に講習で自信



迅速に判断し、問題点を改善するといった課題に取り組んだ。避難所には一時避難所、広域避難場所、避難所、福祉避難所があり、市町村が指定する。避難所の開設と運営で特に気を付けなければいけないと感じたのは、高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦のような要配慮者への支援だ。避難生活をするスペースが限られる中、

迷子への対応や避難人数の把握、食事の提供、簡易トイレの設置などのミッションにも取り組んだ。さらに避難者の名簿の作成、感染症対策、1人あたりのパーソナルスペースの確保や避難所の生活ルールの決定にも挑戦した。名簿作りでは「地域の

仙台市青葉区の東北福祉大ステーションキャンパスで2月8、9日に行われた防災士養成研修講座を受講し、試験に合格した。防災士資格の取得を目指した理由は、かほく防災記者研修に昨年5月から参加して東日本大震災の津波被災地を視察したほか、家族と避難訓練に取り組み、災害への備えをさらに学びたいと思ったからだ。防災士養成研修講座は86人が受講。第1日の6時間目に行われた「避難所の設置と運営協力」では、講義に加え、受講生が10班に分かれ、避難所の開設演習も行った。私は班のメンバー7人と協力し、災害発生時のさまざまな任務にどう対応するべきか話し合い、



救命講習でAEDの使い方を練習する鈴木さん

民生委員の協力も必要だとの意見が出た。私の祖母は民生委員をしていて、地域の1人暮らしの高齢者や要配慮者についてよく知っている。要配慮者が安心して過ごせるようにするために、民生委員は避難所の運営に欠かせない存在だと思う。班のメンバーは私のような中学生から、大学生、お年寄りまで年齢の幅が広く、いろんな意見を聞くことができ有意義だった。

防災士の資格取得は、救急救命講習の受講が条件になっている。防災士の講座に先駆けて昨年10月16日に大河原消防署で講習を受け、心肺蘇生法や自動体外式除細動器(AED)の使用法などを学んだ。

防災士講習も救急救命講習も受講して良かった。いざというときに誰かの役に立てるのではないかとという自信が付いた。

かほく防災記者(河北新報社主催)が、災害や防災・減災に関するテーマを選び、取材、執筆したりレポートを随時紹介します。

河北新報 ONLINE

# みやぎの人事

異動情報かんたん検索

「あの先生はどの学校に？」と思ったら

みやぎの人事

検索

スキマ時間に  
スマホで  
サクッと  
検索



みやぎの人事  
WEBサイトはこちら



読者の方は **新聞プラスプラン**

新聞代 + 月額 **500円** (税込) 初月無料

未購読の方はオンラインプラン月額3,400円(税込)となります

2025年版は3月中旬から順次更新

(予定)

お問い合わせ

河北新報IDカスタマーセンター

TEL.022-355-8825 受付時間/10:00~17:00(土日祝除く)

